

# 石巻南浜津波復興祈念公園基本設計市民説明会 概要報告

## 1. 開催目的

- 南浜津波復興祈念公園の基本設計の説明を行い広く市民に周知する。
- 計画検討協議会の活動や基本設計への反映結果について報告する。
- 以上を踏まえ、「追悼」・「伝承」を大きなテーマとする本公園の今後の管理運営や、植樹、伝承活動等の活動に対して市民、行政、関係団体等がどのようにかかわっていくのか、そのために、誰が、どのような関わり方をすべきか考える機会とする。

## 2. 開催概要

開催日時	平成28年5月29日（日） 10：00～12：30
会場	石巻市石巻中央公民館（大ホール）
参加者	50名
主催	東北地方整備局・宮城県・石巻市



会場位置図

### 3. プログラム

(司会進行：一般社団法人こはく岩井氏)

1) 開会挨拶 <10:00 - 10:10>

※開会挨拶に先駆け、司会の進行により会場全体での黙とうを行う。

石巻市長 亀山 紘

国土交通省 東北地方整備局 建政部 都市調整官 鈴木 武彦

2) 「石巻南浜津波復興祈念公園基本設計」について <10:10 - 10:30>

佐々木 葉 (早稲田大学教授)

3) 「石巻市南浜地区復興祈念公園計画検討協議会」活動報告 <10:30 - 10:40>

松村 豪太

<<< 休憩 会場準備 >>> 10分間

4) パネルディスカッション <10:50 - 12:25>

テーマ 石巻南浜津波復興祈念公園の「今後の運営のあり方」「市民の関わり方」

◆コーディネーター

佐々木 葉 (早稲田大学 教授)

◆パネリスト

阿部 聡史 (環境デザイナー)

空間デザイン検討委員会 委員

小野田 泰明 (東北大学 教授)

空間デザイン検討委員会 委員

亀山 紘 (石巻市長)

黒澤 健一 (がんばろう！石巻の会 事務局長)

計画検討協議会 副会長

古藤野 靖 (特定非営利活動法人こころの森 代表理事)

計画検討協議会 副会長

松村 豪太 (一般社団法人ISHINOMAKI2.0 代表理事)

計画検討協議会 会長

脇坂 隆一 (国土交通省 東北国営公園事務所 所長)

渡部 桂 (東北芸術工科大学 准教授)

空間デザイン検討委員会 委員

※敬称略・五十音順

5) 閉会挨拶 <12:25 - 12:30>

宮城県 土木部 技術参事兼都市計画課長 尾形 昭範

## 質疑応答の概要

(会場からの意見とその回答)

### □質疑応答（市民意見の取り扱いとその記録について）

#### 会場からの意見

##### ○参加者 A

中瀬と南浜の公園のワークづくりショップに私も参加したが、子供たちの意見をこの復興祈念公園基本設計でどこまで反映させたのか。

##### ○参加者 B

この公園については、いろいろな意見があったと思うが、これを賛成も反対も含めて、アーカイブとしてきちんと残していただきたい。市民が様々な意見を交わした、これも大事な記録で伝承につながると思うので、その点を考えていただきたい。

#### コーディネーター・パネリストの回答

##### ○佐々木

協議会等での意見は我々の会議の場にも情報として伝わっていて、できるだけキャッチボールしながら進めてきたと思っている。

具体的に個別にこうなったというフィードバックはなかなかできていなかったところもあるが、きょうの説明会も一つのフィードバックの一環だのご理解いただければと思う。

プロセスも含めてアーカイブしていくことは、本当にだいじなことだと思う。

##### ○松村

この公園の議論のスタートの地点は、2012年の冬のワークショップだったと思う。

今、石巻ではいろいろなところで高校生が元気に活躍しているが、あ那时的ワークショップが、何か着火剤になっているんだろうなと感じている。

##### ○亀山

子供たちの意見を取り込んでいくということは、非常に大事だと思っている。

これから公園をつくる上で、子供たちの体験をどのように公園の中に生かしていくか、これからも考え続けていく必要があると思う。

##### ○古藤野

今やっとデザインがぼやっと見えてきた段階だと思うが、これに対して使う側として、未来に引き継いでいく側として、どんどん意見をいただきながらつくり込んでいくという作業が物すごい大切だと思う。デザインで世界に発信するのも大切だが、つくり込んでいく過程の姿を世界に発信していくというものも必要だと思う。

##### ○小野田

すぐれたデザイナーは、じっくり話し合っ、それを取り込んでいくことができる。

ただ、もらった意見は一旦全体で再構築してデザインをするので、なかなかその痕跡を見つけるのは難しいかもしれないが、よく読んでいくと、思いやおっしゃったことが実現しているのではないかな。

ある時点からは、お金を精査して、安全をチェックしてということをやらなきゃいけないが、その段階までは丁寧に議論していくことが大事だと思う。

##### ○阿部

個人的には、納得感というものをどうやってつくっていくかが重要だと思う。このような大きな公共事業には賛成、反対、どちらの意見も多くでてくる。そういった意見の相違をすり合わせていくような、両者がお互いに寄り添うような環境づくり、議論づくりというのが、今後の計画の納得感というのにすごく寄与してくると思う。

□質疑応答（遺骨の残る可能性のある地であることへの配慮について）

<b>会場からの意見</b>
○参加者B この場所は、今もなお、亡くなられた方のご遺骨や遺品があるかもしれない場所。その上で歩いたり、楽しんだりしているということをしっかりと伝えてからこの公園に入れるような、そうしたメッセージをきちんと残していただきながら、その上での利活用というものを検討いただきたい。
<b>コーディネーター・パネリストの回答</b>
○阿部 最近、南浜で行われている造成工事用ヤードづくりの工事を行方不明者の捜索と兼ねることができなかつたかとの考えも自分の中にはある。遺族、行方不明者を持っておられる方々、今までの計画に対して意見してきた人たちに対して、こちらがどう行動していくかがとても重要だと思う。
○佐々木 南浜の工事なんだから、こういうことは当然気を使いながらみんなでやろうよねという雰囲気づくりが必要であるし、定期的な現場工事見学会をやるとか、そういう仕組みをつくりながら進めていくということが必要なのではないか。
○亀山 南浜の場合には、工事が進む前にできるだけ捜索を進めるということを考えている。まだ不十分という意見もあることは承知しているので、工事が本格的に始まる前に捜索を進めることを検討したいと考えている。

□質疑応答（教訓の伝承のためのミュージアム建設について）

<b>会場からの意見</b>
○参加者C 災害発生時の被害を最小限に食いとめるための、防災意識を高めるための、また教訓を伝承とする場として、ミュージアムをぜひ建設していただきたい。
<b>コーディネーター・パネリストの回答</b>
○古藤野 震災を伝える施設ができ、そういうところにこの公園ができるまでの過程の記録も残して、それをみんなでかみしめられれば非常に素晴らしいことだと思う。

□質疑応答（市民活動の広場の運用について）

<b>会場からの意見</b>
○参加者D 亡くなった方々、ここを離れざるを得なかつた方々の思い、ここにかかわった人たちの思いを大事に扱ってほしいというのが一番の願い。 市民活動の広場がこれからできあがって、どんな活動をしていくのか、ルールもなく、一般的に公募もされずに物事が決まっている状況もあり、私たちの声は生かされているんだろうかと、疑心暗鬼になっている。今後はそこを払拭するような体制としてほしい。
<b>コーディネーター・パネリストの回答</b>
○佐々木 きちんと記録に残して、心を尽くすというだけではなくて、それをどういう具体的な手続なり行為に、今後反映していくべきかということを考えていきたいと思う。



開会あいさつ



基本設計について



検討協議会について



パネルディスカッション



閉会あいさつ



会場全景

市民説明会開催状況